

寺子屋とその師匠

史学班 (徳島史学会)

稲飯 幸生*

要旨：旧木屋平村の寺子屋の師匠について、その出自や活動状況の調査結果を報告する。

キーワード：寺子屋師匠 7名

1. はじめに

旧木屋平村は歴史の古い村である。中世のころに日本の中核とも関係があったことは現存する松家文書・三木文書などでも明らかである。また、文書のみでなく地域内には板碑・仏像などの歴史的遺物が数多く残されている。

しかし寺子屋に関する資料は少ない。少ないというより皆無に近い状況である。地域や個人の家に伝わる文書もなく、二回にわたる『木屋平村史』（昭和46年刊・平成8年刊）・『美馬郡郷土誌』（大正4年刊）にも寺子屋に関する記述はない。

ただ、『日本教育史資料』（明治25年文部省蔵版）に木屋平村に3名の師匠、川井村に4名の師匠が記載されているので、この7名の師匠について地域の人々の伝え話を聞き取って記録した。

2. 寺子屋の師匠

○梅津一三郎

天保9年（1838）4月23日生

大正10年（1921）10月23日没

川井村南張に住む。自宅で寺子屋を開いた。

『日本教育史資料』には

（学科） 習字

（所在地） 川井村

（師匠氏名） 梅津一三郎

とある。

付近の子供たちに習字を教えたいが詳細な状況については不明である。

梅津家は屋号を「正谷^{まさだに}」といった。室町時代中期に讃岐国より浪人して旧河井村の久保名に住んだという。蜂須賀入国に際しては最初は反抗したが後に降り、その後は旧河井村の庄屋を長らく勤め、明治以後は自宅の一部を村役場に貸していた（木屋平の昔話・芝原富士夫著）。大正年間に当主の主膳氏は北海道余市郡へ移転されたが、今も子孫の方は余市郡に住んでおられるという。一三郎の長男猪久郎の墓は川井にある。

○松家久蔵^{まつか きゅうぞう}

文化12年（1815）2月10日生

明治30年（1897）11月9日没

字太合^{たいごう}に住む。家号を「こみ」という旧家である。国道438号の南側で旧木屋平中学校の敷地に自宅があった。

村の旧家の松家一族は山林・田畑を持つ大地主であった。松家氏はもとは木屋平氏をとなえていたが、蜂須賀入国に際し松平氏の一字をもらい松家を名乗った、といわれる。

* 神山町下分

自宅で近所の子供を教えた。久蔵の孫に剣道の達人がおり近所の青年に教えた。

後裔の方は石井町に在住されている。

『日本教育史資料』には

(学科)	読書・習字
(旧管轄)	徳島領
(所在地)	木屋平村
(開業)	明治元年
(廃業)	明治5年
(男女教師)	男1
(男女生徒)	男16
(調査年代)	明治5年
(身分)	農
(師匠氏名)	松家久蔵

とある。

○松家シヲ

文化12年(1815)4月10日生

明治25年(1892)10月27日没

『日本教育史資料』には

(学科)	習字
(所在地)	木屋平村
(開業)	明治初年
(師匠氏名)	松家シヲ

とある。

自宅は木屋平字^{もりとお}森遠の八幡神社(旧森遠城跡)の裏側である。屋号を「お屋敷」といって松家の一族の本家である。シヲは名西郡^{たかし}高志村(現上板町)から松家氏に嫁いできたという。松家氏は村内各地に広大な田畑を持ち地域の人々に耕作させていた。シ



写真1 松家シヲの寺子屋跡

ヲはこのような家庭環境のなか、ゆとりある生活の間際に子供を教えたのであろう。

女性の寺子屋師匠は珍しく『日本教育史資料』では県内に470名あまりの私塾・寺子屋の師匠が記述されているが女性の師匠は松家シヲを含めて5名である。また、シヲ以外の女師匠は氏名が記述されず「女師匠」とあるのみである。シヲが女性の寺子屋師匠として県内唯一氏名が記載されていることは、村人に対するシヲの影響力が大きかったと考えられる。県内ではシヲ以外の女性師匠としては神山町上分字本根川に女性師匠の墓があり、台石に刻まれた弟子のなかに木屋平の字大北の者の名がある。この神山町の女性師匠は『日本教育史資料』には記載されていない。

○竹内久次郎

生没年不詳

竹内氏は阿波藩の筆頭家老である淡路の稲田家の家臣で竹内流の剣術の指南番の家柄であったという。ある不祥事に関連して家は断絶となり、国外に追放を命ぜられ麻殖郡(麻植郡)河井村^{ちちのぎ}櫟木名の仁田^にに住んだ。

この地域は現在は山林になっているが、往事は剣山街道の沿った集落があった。「写真2」の□印が仁田集落である。この道は対岸に道路ができるまでは吉野川流域から剣山に行く主要街道の一つであった。

寺子屋の師匠には事情により徳島藩士を辞して田舎に移り住んだという人がみられる。今までの教養をもって寺子屋の師匠となり、土地の女性と結婚して生涯を終えたという例が佐那河内村の嵯峨地域にある。

この佐那河内村の師匠は、寺子屋跡もはっきりしているし、妻と並んで墓もあり、後裔のかたも現存しておられるが、久次郎の場合は木屋平村へ来てからの生活状況ははっきりせず、没年も不詳である。

伝えによると久次郎の死後、兄久幹・妹イサミは字大北^{ひさより}の通称「うるさっこ」に住んだ(後述)。

『日本教育史資料』に久次郎については

(学科)	習字
(所在地)	川井村
(開業)	明治初年

(師匠氏名) 竹内久次郎
とある。



写真2 竹内久次郎の寺子屋のあった仁田地域
□ 仁田地域

○竹内久幹^{ひさより}

生没年不詳

前述の竹内久次郎の長男である。父と妹のイサミとともに旧河井村の仁田に住んだが、父の死後は妹とともに字大北^{おおきた}の通称「漆造^{うるさつこ}」の谷本家の借家に住んだ。兄妹は剣術・棒術を土地の人に教え、寺子屋も開いていたという。明治の末に久幹は徳島市へ転籍して就職したというが、その詳細は不明である。イサミは生涯独身で通し、大正年間（年度不詳）に大北名で死亡した。

葬儀は棒術の弟子達と地域の人が行ったが、その後、久幹の子が訪れて葬儀費用などを支払い、位牌を持って帰ったという。久幹の後裔については消息不明である。

『日本教育史資料』には

(学科) 習字
(所在地) 川井村
(師匠氏名) 竹内久幹

とある。久幹が教えたという寺子屋については地元の川井村にはその言い伝えが語られていない。

○船戸駒蔵

弘化元年（1844）11月10日生

明治38年（1905）3月3日没

字川上^{かわかみ}に住んだ。僧職で若いときに太龍寺（阿南市・四国霊場21番札所）で修行していたが、事情があって村へ帰って寺子屋の師匠をした。川上・太

合・谷口などの広い範囲の子供を教えたようである。僧名を「ずいげん」（漢字不詳）といったという。

『日本教育史資料』には

(学科) 習字
(所在地) 木屋平村
(開業) 明治初年
(師匠氏名) 船戸駒蔵

とある。

後裔の方が徳島市国府町に現存しておられる。

○五島新太郎

生没年不詳

(学科) 習字
(所在地) 川井村
(師匠氏名) 五島新太郎

この師匠については『日本教育史資料』に上述のような記述があるが五島という性を名乗る家は旧木屋平村にはないということである。後藤・伊藤ではないかとも考えられるが、この性についても村内にはなく、該当する人物および寺子屋についてもその言い伝えは残っていない。

○松家氏（屋号・ただいら）の墓地

『日本教育史資料』は記述はないが、字谷口の屋号「ただいら」（松家氏）の墓地に師匠らしき戒名がある。ここには新しい累代墓の周囲に享保以後の50人の戒名が刻まれた石碑が建てられているがそのなかに「教」の文字のある方が次ぎの3名みうけられる。

・教室理慶信尼 享保10年7月31日没
・自徳院実道教覚居士 文化5年1月14日没
・安楽院教学諦栄居士 弘化2年4月11日没

この3人については経歴その他は不明であるが、「教」の字は子供たちをふくめ、周辺の人々に対して何か教えることがあったのでなからうか、と想像される。この家は松家氏一統の旧家として周辺の人々にも信望のあついで家でもあり、習字・裁縫・家庭の躰など、何かを指導したのではなからうか。

とくに「教室理慶信尼」については享保時代の人であるということ寺子屋の存在は考えられないが、女性にして地域に対して何か教育的な貢献があったと考えられる。

3. おわりに

この調査について地域の人々のご協力に先ず感謝をしたい。寺子屋に関する文書資料が少ないなかで地域の言い伝えを中心に調査をしたが、どこの地域でも温かく受け入れてご協力をいただいた。現地調査への同行、寺子師匠の後裔の方への紹介など、数え切れないご支援をいただいた。

昨年度の旧東祖谷山でも同様であったが、寺子屋は村の有力者が中心になって、その家族が師匠となって躰・習字・そろばんなどを教えている状況が多かったと思われる。他村から武士をやめて師匠と

なった竹内久次郎の場合などは特異なものである。

また女性師匠としての松家シヲの存在は特筆すべきものであるが、資料がないのが惜まれる。明治5年に文部省（現文部科学省）の調査に際し村より寺子屋師匠を報告したと思われるが、そのときシヲの活躍が目立っていたのであろう。

別の松家氏（屋号・ただいら）の「教室理慶信尼」も女性ながら地域の教育のために貢献していたのであろうが、藩政末期から明治初年にかけての時代に、村内において女性の教育的な役割が表面に表れているのは興味深い。

参考文献

- 日本教育史資料（文部省蔵版・明治25年刊）
- 木屋平村史（昭和46年刊・木屋平村）
- 改訂木屋平村史（平成8年刊・木屋平村）
- 美馬郡郷土誌（大正4年刊・美馬郡教育会）
- 木屋平の昔話（昭和53年刊・芝原富士夫）

資料提供・協力者

- | | |
|-------|-----------|
| 芝原富士夫 | 吉野川市鴨島町山路 |
| 長楽 憲彰 | 美馬市木屋平字川井 |
| 野田 公 | 〃 森遠 |
| 阿部 又生 | 〃 弓道 |
| 松家 繁信 | 〃 森遠 |



写真3 松家氏（家号・ただいら）の墓地